

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【泉南地域の中核的公立高校として、思いやりのある人を育成し、地域に信頼される学校をめざす。】	
1	課題解決能力（主体的に課題を発見して、ICTを用いた情報収集、論理的に思考する力）および発表する能力を育み、「確かな学力」を育成する。
2	グローバルな視点を持ち、「自己実現」と地域社会に貢献できる人を育成する。
3	思いやりのある人間性を育み、未来の創り手となる人を育成する。
4	生徒の成長とともに、教師も学びながら新たな課題に取り組む同僚性の高い学校組織を構築する。

2 中期的目標

1	「 <b>確かな学力</b> 」を育成する。 （1）学びを人生や社会生活に活かせるよう、早期にキャリアを展望させ、働く知識・技能の習得など、新しい時代の変化の中で学び続けられる資質・能力の育成をするため、主体的・対話的・深い学びの視点からの授業改善に取り組む。 ア 相互授業公開や研究授業、1人1台端末の活用、他校好事例の見学。 イ ICT機器を効果的に活用し、協働的な学びと一斉学習を併存的に展開し、学びの深化を図る。 （2）学校教育自己診断および授業アンケートなどを効果的に活用した授業改善に一層取り組む。 ※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度（R3：57.3%、R4：69.5%、R5：76.9%）を毎年引き上げ、R8年度には70%にする。
2	地域に根差した高校として、「 <b>自己実現</b> 」「 <b>自律心</b> 」を育成する。 （1）自らの学習状況やキャリア形成を見通し、それぞれがより高い進路実現をめざす。 ※国公立大学、公務員就職者は少なくとも一人ずつ、大学と看護医療系学校（R3：50名、R4：54名、R5：53名）などの合格者は毎年50名以上輩出する。 ※キャリアパスポートを用いて学習の記録をポートフォリオ的に記録し、進学・就職時に活用できるようにする。 （2）特色ある教育活動の充実。 ア 「ハートフルほいく専門コース」をさらに充実させる。 イ 学校行事への地域住民の参画、連携の拡大。 ウ 国際理解教育をさらに充実させる。 （3）社会に開かれた学校づくりを更に推進し、その取組みはホームページ等を活用しての広報を充実する。 ア 有志による通学路清掃活動（のべ参加者数：R3：80名限定、R4：187名、R5：120名。）を毎年実施。 イ 学習発表の場として地域イベントへの積極的な参画。 ウ ホームページのコンテンツ充実とメール発信ツールの効果的活用。 （4）社会構成員としての自覚を高める。 ア 遅刻・早退・欠席等を減少させ、基本的生活習慣を確立する。 ※全学年年間遅刻件数（R3：8.5回/人・年、R4：9.9回/人・年、R5：11.0回/人・年）を毎年徐々に減らしR8年度に7.0回/人・年とする。 イ 通学マナーの向上と広域生徒指導の定着を図る。
3	思いやりのある <b>人間性</b> をはぐくみ、未来の創り手となる人を育成する。 （1）一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実。 校内支援体制の更なる充実とともに、福祉医療関係人材・SC等外部機関との連携をより深め、障がいのある生徒、そうでない生徒、課題のある生徒、そうでない生徒等、すべての生徒の学びと育ちを支援する。 ア 「自尊感情」の育成と「多様な個性」「ともに生きる社会」について理解を深める教育を推進する。 イ <b>人権教育</b> の計画的実施と研修及び共同学習の推進。 ※人権尊重の教育を充実させ、対人関係に起因するトラブルの未然防止に繋げる。 ウ 生徒の変化や人間関係のトラブルを見逃さず認知に努め、関係機関と連携して、校内委員会を開催し、未然防止、対応、解決に向かう。 （2）特別活動や生徒会活動を通じて自己有用感を醸成する。 ア 部活動やボランティア活動を通じて社会貢献の意識を高める。 イ 学校行事を通して集団の中での人間関係の大切さと集団への帰属意識を高める。 （3）健康・美化・防災への意識を向上し、清潔で整備された安全で安心な教育環境を維持する。 ア 感染症に係る対応を状況に合わせて継続する。 イ 日々の清掃活動の充実を図るとともに、施設・設備の点検、維持管理、更新などに積極的に取り組む。 ※学校施設の機能強化（安全・保健衛生・長寿命化）の為に総点検を実施し課題を抽出する。 ウ 避難訓練を火災、南海トラフ大地震およびJアラートを想定して計画・実施する。
4	<b>働き方改革</b> に取り組む同僚性の高い学校組織の構築 （1）教育課題と向き合い、時代の変化に対応できる教職員の育成を図る。 ア 時代の変化に柔軟に対応できる学校文化の醸成と教員力を向上するため、組織的・計画的な授業改善研修を軸とした研修を実施する。 （2）教職員の <b>働き方改革</b> と健康管理の観点から、週一回午後5時定時退庁日を設定し、教員一人ひとりの意識改革を推進。 ア 組織として業務に取り組み、時間外勤務縮減に向けた取り組みの促進や勤務時間の自己管理の徹底。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒対象】</p> <p>殆どの設問について、昨年度からの増減が5%以内となっており明確な変化はない。5%を超える増減があった設問と肯定率は次の3点。</p> <p>問10「文化祭や体育祭など授業以外の学校行事は楽しく行えるように工夫している」5.4%減72.1%、問11「りんくう翔南高校の生徒会活動は活発である」6.4%減の58.4%、問18「学校は、生徒1人1台 端末を有効に活用している」9.8%増の66.7%であった。</p> <p>「学校に行くのが楽しい」「学校の授業はわかりやすい」は微減であるのに対して文化祭、体育祭や生徒会に関する減少幅が大きい。入学生徒のニーズとの乖離を埋める必要がある。</p> <p>【保護者対象】</p> <p>今年度フォーム作成ツールを導入したためか回答率は昨年度の 36.8%から 17.2%に減少した。昨年までの傾向として1年生の保護者からの回答が80件を超える回答があったが、今年度は26件にとどまっている。2回にわたり周知を行ったが回答数は伸びなかった。データから5%を超える増減があった設問と肯定率は次の4点。</p> <p>問5「学校の服装や髪など生活指導方針に共感できる」8.1%減の59.0%、問2「子どもは授業がわかりやすく、楽しいと言っている」7.9%増の53.0%、問9「学校は、教育情報について提供の努力をしている」8.1%増の74.0%、問12「りんくう翔南高校のクラブ活動は活発であると思う」9.1%上昇の51.0%であった。学校の身だしなみ指導の内容に変更ないが、規律指導に対する共感が減少傾向である。学校からの情報提供体制や授業に対するの評価は高まっている。今後保護者や生徒の理解を得るために丁寧な説明が必要と考える。</p> <p>【教員対象】 昨年度、回答率がそれまでの50%台から80%に上昇したがほぼ全ての項目において否定的な評価となった。今年度 84%の回答率があったが、26項目中19項目で昨年度より肯定的な評価が増加している。状況が変化していく中でそれに対応している点を評価していると考えられる。カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導、教育相談体制や問題行動防止にかかる早期指導については肯定率が 14%を超えており、いじめ事象、配慮を必要とする生徒への対応やその他問題行動に対して、個人で対応するのではなく、学年や分掌を超えてチーム学校として対応する意識が高まっていると捉えている。一方今年度になり生徒が校則やマナーを守れていないと認識する割合が 10%以上増加している。入学生の多様化が一層進んでいることで、生徒指導により丁寧な対応が求められる機会が増していることが読み取れる。</p>	<p>【第1回会議】（7月24日実施）</p> <p>●令和6年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・下校指導にPTAとして参加したが、先生から「さようなら」と声を掛けているのが、先生の方が気を使っている印象。学校は勉強することも大切だが、大人と子供の間、子供から大人になる場所なので、社会に出る前のいろんな大人との関わりの中で成長してほしい。</li><li>・体育祭、翔南祭にPTAも生徒と一緒に参加しているが、地域住民の参加はできないのか。昨年度、PTAの立場で昨年初めて参加し、生徒以上に楽しめたが、セキュリティ問題もあるが教員だけに任せるのではなくPTAも協力したい。</li><li>・国際理解交流は、海外学校との交流、校内で英語を用いて発表するケースがある。大阪府がSDGsビジョンを出しているが、国際交流はどちらかといえば特別活動に通ずるもので、教科教育との距離感があるように感じた。福祉と国際交流なら、国際交流も教科教育としてカリキュラムマネジメントを行う必要がある。学校教育は一部の部分を切り取った特徴ではなく、学校を挙げての空気感、すべての教職員が関わっていく必要がある。大阪万博も大阪湾で実施されるため、りんくう翔南ならではのオリジナルカリキュラムがあってもアピールできるため、定員割れに対する直接的な策にもなり得るのでは。</li><li>・授業アンケート授業満足度が令和3年度から10%程度ずつ急増したため、すでに令和8年度目標を達成していて素晴らしい。今短大でアンケートを実施すると、泉州地域出身者ではアルバイトなどで外国人とのつながりを持っている。地域に信頼される学校が泉南地域の拠点となる学校として必要。地域から信頼されるためには学校に通うことが楽しいと思えるようにする必要がある。不登校生徒にとって楽しい学校にする必要がある。大学の場合は1/3の欠時数を超えてはいけない。学校が楽しい場所にする必要がある。</li></ul> <p>【第2回会議】（11月25日実施）</p> <p>●授業見学について（2年生数学Ⅱ「微分法・方程式不等式」）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・教員作成の教材プリントを使用して授業が進行していたが、教員がきめ細かく生徒の反応を見ながらやり取りを行っていた。細分化して説明しておりわかりやすくなっていると感じた。</li><li>・それぞれの生徒との関係ができていることが伝わってくる授業であった。教室の楽しい雰囲気を見せていただいた。</li><li>・教員が大きな声でわかりやすく解説されている。気になる点として、生徒たちは解き方を覚えているが意味合いがわかっていないように見える。なぜ、微分法を学んでいるか本質的なところが必要だと思ったが、生徒の満足が伝わるとても良い授業だった。</li><li>・昨年度も同時期に、この学年の授業見学をしたが、1年のときより授業態度が良くなっており、その生徒も真剣に授業を受けている。</li><li>・先生がどんどん進めるのでなく、少しずつ確認しながら進めている。生徒の動きを見ると、わからない子がいるとわかっている子が教えている様子がみられて良かった。</li></ul> <p>【第3回会議】（2月3日実施）</p> <p>●令和6年度学校評価および令和7年度学校経営計画について承認された。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・令和6年度学校評価に記載の「探究」について、主たる場である総合的な探究の時間がどのように実施されたのか。また、国際交流で海外校との交流が難しかったということについて、関西国際空港の運営会社、航空会社との連携の可能性についてどう考えているかについて、企業は地域貢献を行うことが求められている立場であり、かつ日常的に国際的な活動した人材が豊富にいる。交流は企業にとってもメリットがある。</li><li>・総合的な探究の時間の進め方については、大学の教育学部にも頻繁に大学院の持っている知見の提供や高校の総合的な探究を指導ほしいと要望がある。学習指導要領の解説に示されているように、いわゆる探究のサイクルがあって、小中学校では総合的な学習、高校では総合的な探究、大学ではそれを研究というだけのことで、同じような内容となっている。例えば、解らなかったことを解るようになる、あるいは身の回りにある課題をどう解決していくのかということが、高校での総合的な探求の取り組みを見ていると、りんくう翔南高校では、例えば保育や看護といった専門的な知識がある専門家でないと教示できないみたいな雰囲気があるように感じる。文部科学省の意図は、一人ひとりのごく普通の高校生が地域や社会にてコミットする体験をさせるということが本来の趣旨なので、まずはプロセスを構造化し、それに基づいて実行させる必要があるのではないかと</li><li>・大学入試において、総合的な探究の成果を持って必要最低限の学力で公立大学進学を実現する戦略を立てている高校もある。りんくう翔南高校の公立大学進学にかかる戦略を立てる必要があるのではないかと。</li></ul> <p>●進路指導について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・進学では、総合型選抜での合格が圧倒的に多い。総合型選抜は、ポテンシャルをアピールして合格を勝ち取ると思うので、生徒がコンテンツをどれだけ持っているかの勝負だと思う。進路を意識するのであれば、方向性として総合的な探究の時間を、より攻めに回ったアプローチする形態にするのが好ましいのではないかと思う。</li></ul>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 「確かな学力」の育成	<p>(1) 新学習指導要領を見据えた(主体的・対話的・深い学び)の視点からの授業改善</p> <p>(2) 特色ある教育活動の充実</p>	<p>(1) ア・授業の相互見学や研究授業の実施とその後の研究協議や振り返りシートのフィードバック。 ・アクティブラーニング等の授業方法の研究実践。</p> <p>イ・授業改善を軸に、あらゆる教育活動における ICT 機器の利用拡大。</p> <p>(2) ア・グローバル人材育成のため、SDGs(持続可能な開発目標)の視点も踏まえ、国際理解教育委員会による交流行事の充実と活性化を進める。(国際交流代表団の派遣継続) ・地域の日本語教室や NPO 等と協力して、多文化理解の取組みを進める。 ・国際的共通語として中心的な役割を果たす英語力をバランスよく育成するため、英語で話す機会の確保。</p> <p>イ・ハートフルほいく専門コースの充実。 ・大学、短大、専門学校との連携推進。</p>	<p>(1) ア・授業アンケートの結果平均 3.1 以上を維持する。[3.35] ・学校教育自己診断における授業満足度を上昇させる。[78.9%]</p> <p>イ・教科指導における ICT 機器の活用を増加させる。 [ICT 活用確認 第 1 回授業見学时:23 人、第 2 回授業見学时:24 名]</p> <p>(2) ア・国際交流事業を発展的に継続させる。[海外校との Web 交流 10 名参加] ・多文化理解の取組みへの参加を奨励する。[1 回]</p> <p>・校内で英語を用いて発表をする教育活動を実施する。[1 回]</p> <p>イ・ハートフルほいく専門コースの授業での成果発表を、校内校外を問わず年 3 回以上実施する。[5 回]</p> <p>・大学・短大・専門学校等の連携を 2 校以上とする [2 校] ・大学、短大、専門学校との連携授業を年 10 回以上実施する。[10 回]</p>	<p>(1) ア・授業アンケートの平均は 3.28 (教諭以上)と昨年度より減少したがおおむね達成できた。(○) ・学校教育自己診断における生徒の授業満足度が 1.4% 下降し 75.5% になったが、4 月当初と比べて取り組み状況は改善することができた。一方、教員の、生徒が授業を理解しているという項目では 0.4% 上昇し 64.3%、生徒が授業に集中しているかの項目については 16.3% 上昇し 60.7% となっている。(○)</p> <p>イ・授業見学时 ICT 活用者は第 1 回:23 人、第 2 回 20 人。資料の配布、宿題の提出を学習支援クラウドサービスで行う授業もある。2 学期以降 ICT 機器の活用機会が減少している。(△)</p> <p>(2) ア・相手校の都合で Web 交流は中止となった。代替としてスペインと台湾にルーツのある 2 人の外部講師と交流を行った。英語で自己紹介と日本の文化を伝え、その後、それぞれの国について学び文化に触れる体験を行って理解を深めた。有志 10 名参加。(○) ・渡日生や外国にルーツを持つ生徒を多数指導してこられた府立高校元教諭を招き多文化理解の人権講演を実施した。語られる対象が同じ高校生であるということ で身近に感じていた。1 回実施 (○) ・国際交流の事前学習において英語で趣味や文化について発表し合った。1 回実施。(○)</p> <p>イ・地域福祉委員の方々と協力して校内で地域の高齢者を招いて交流会を実施した。また、校内で保育園児に大型絵本の読み聞かせを行った。また、学年別に校内学習発表会を行い動画やダンスを交えた取組みの発表をした。発表回数計 5 回 (○) ・専門学校と連携して成人として身につけておきたいマナーの一つとしてテーブルマナー講習会を実施した。短大との連携授業実施。2 校。(○) ・短期大学、専門学校、食品加工会社等と連携して実践的な授業を実施した。保育、調理等の分野を中心に専門家による授業や実習を受けて将来の進路決定の動機につながった。10 回実施 (○)</p>

府立りんくう翔南高等学校

2 地域に根差した高校として「自己実現」「自律心」の育成	<p>(1) 自律心を高めて規律ある学校生活を送る。</p>	<p>(1) ア・全校一斉指導（服装・頭髮・身だしなみ指導）を充実させ規範意識を高める。 ・式典（始業式・終業式）での校歌斉唱及び正装の徹底を図り儀式的行事感を身に付ける。</p>	<p>(1) ア・停学を伴う特別指導案件数を昨年並みとする。 [43 件、55 名] ・全学年総年間遅刻件数を生徒一人当たり昨年並とする。 [平均 11.0 回] ・式典時、自主的に整列ができるようにする。</p>	<p>(1) ア・特別指導案件は 26 件、28 名と減少傾向。しかし今まで見られなかった重大案件から懲戒指導にまではならなかった軽微なものまでを数えると扱った案件は多岐にわたり増加している。生徒の規範意識を高めるために教員が一丸となってカウンセリングマインドを高め、未然防止と生徒の規範意識の向上に努めたい。(○) ・登校時の遅刻総数 6,044 回（生徒一人あたり平均 10.1 回）で昨年度より減少したがまだまだ多い。登校後の授業遅刻やトイレ退出は認めているがトイレ退出は増加傾向である。これらは規範意識と共に学校力が問われる数値と捉えて引き続き授業の大切さを再認識させる必要がある。(○) ・式典指導では始業式終業式を体育館で実施。教員の指揮の下、ほとんどの生徒は指示される前に自主的に行動し静粛に式典を行っている。今後は生徒会指揮での自主的な整列をめざしていきたい。(○)</p>
	<p>(2) 一人ひとりの希望する進路を実現する。</p>	<p>イ・広域生徒指導を定着させる。</p> <p>(2) ア・高大接続改革（大学入試制度の変更：多面的評価の導入）へ対応。 ・進路実現に向けた外部模試の有効活用</p> <p>イ・定期考査前補習や進学希望者補習の実施と、教育産業との連携及び特講（進学補習）や夏期自主勉強週間の充実。 ウ・それぞれの進路実現のサポート。(一つ上の進路目標を意識) ・指定校推薦や A0 入試に頼らず、一般入試や公募制推薦入試を活用した進路実現の拡大。</p>	<p>イ・広域生徒指導を例年並みに実施する。[警察との連携 1 回]</p> <p>(2) ア・キャリアパスポートを各学期に 2 部程度作成する。 [2 部] ・外部模試受験者数を 20 名とする。 [15 名] イ・特講、夏期自主勉強会の企画、実施を 60 回以上維持する。 [60 回] ウ・国公立大学や公務員合格を絶やさない。 [1 人] ・公募制推薦入試等合格者数を 10 名とする。 [15 人] エ・進路未決定者（進学浪人を含まず）を 3 % 以下に抑える。 [10.0 %]</p>	<p>イ・生徒会、保護者、教職員、地元域警察署と連携し交通安全に係る活動を行った。1 回実施。(○)</p> <p>(2) ア・進路ガイダンス HR でキャリアパスポートを各学期に 2 部作成しキャリアガイダンスに活用。(○) ・外部模試受験者数は 17 名で微増。4 大進学者が減少傾向であるが、教員の働きかけにより難関大学をめざす者も出て進学に対する意識が向上してきた。(○) イ・夏期自主勉強会に全学年で 12 名が参加した。また、3 年生対象に特講を実施し、9 名が参加した。56 回実施。(△) ウ・国公立大学 0 名であったが、公務員の合格者は、行政職 1 名と自衛隊 2 名、合計 3 名であった。関係機関に依頼して学校で試験対策講座実施し生徒の公務員受験に対する意欲を高めることができた。(◎) ・公募制推薦入試等合格者数 8 名と減少。(△) エ・進路未決定者（進学浪人を含まず）は 5.8 %で、アパレル関係を希望する生徒を中心に自己開拓で行く生徒が増え学校斡旋が減少した。(△)</p>
	<p>(3) ウェブサイトや学校通信などの広報活動を充実させ、地域に開かれた学校づくりを更に推進する。</p>	<p>エ・就職希望者向けに就職講座を実施し、求人票の見方、願書の書き方、面接練習といった実践的な指導を行う。</p> <p>(3) ア・学校行事への地域住民の参画、連携の拡大</p> <p>イ・メール発信ツールやホームページを充実させる。</p> <p>ウ・地域イベントへの積極的な参画。</p>	<p>(3) ア・体育祭、翔南祭への地域住民の参画を奨励する。 [保護者、未就学弟妹入場実施]</p> <p>イ・メール発信ツールへの登録者数を増加させる。 [1,098 件] ・メール発信ツールを昨年並みに有効に活用する。 [メール発信 36 件] ウ・地域連携活動を 15 回程度とする。[8 回]</p>	<p>(3) ア・体育祭、翔南祭（文化祭）ともに保護者、未就学弟妹の入場を許可して実施。体育祭は、新競技や応援合戦など生徒主体で実施できた。翔南祭は、食品部門を中心に舞台やゲーム、展示とも盛況であった。同窓会企画の出店もあった。(○)</p> <p>イ・学習支援クラウドサービスへの登録と重複しているためメール発信ツール登録者 1151 件と若干増加した (○) ・重要事項の連絡、アンケートの実施、学校行事の案内呼びかけなどの連絡に活用。メール発信 35 件。(○) ウ・近隣大型商業施設の文化祭に有志生徒が参加。大型アウトドアレジャー施設で泉南市主催のイベントに男子バスケットボール部が参加。近隣保育園が避難訓練で来校した際に絵本の読み聞かせなどを行い交流 (2 回)。新規の活動や交流が増え、参加者が昨年度よりも増加した。計 14 回地域の活動に参加。(○)</p>
		<p>エ・学校紹介の充実。</p>	<p>エ・学校説明会申し込み中学生数を増加させる。 [230 人]</p> <p>・中学校、近隣私塾へのアプローチ回数を例年並みとする。 [中学校訪問延 80 校私塾等説明会 3 回]</p>	<p>エ・校内学校説明会を 3 回実施。軽音楽部によるウェルカムコンサートやダンス部の演舞、生徒会役員による制服の説明やなどは好評であった。第 2 回めと第 3 回めは食堂の無料試食会も実施した。合計の申込人数が旧 9 地区生徒数減少の中でも 270 名となった。(○) ・全教員で延べ 80 校の中学校に訪問。本校の特色や高校でのフォロー体制およびオープンスクールを案内。塾等主催進学説明会に 5 回参加。ブース及び発表形式で説明した。(○)</p>

府立りんくう翔南高等学校

3 思いやりのある人間性をはぐくみ、未来の創り手となる人を育成する。	<p>(1) 「自尊感情」の育成と「多様な個性」「ともに生きる社会」を理解できる教育活動を進める。</p>	<p>(1) ア・志学、道徳教育、キャリア教育等と連動した総合的な探究の時間やホームルーム活動を充実させる。 イ・生命の尊さを問う、また感染症を含む様々な偏見や差別を許さないなどの人権教育を充実させる。</p> <p>ウ・全教育活動を通して、生徒の変化や人間関係のトラブルを見逃さず認知に努め、機を逸することなく関係機関との連携にて校内委員会を開催するなど、組織として未然防止、対応、解決に向かう。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断による生徒の学校満足度（「自分のクラスは楽しい」の肯定意見）を80%以上とする。[78.1%] イ・人権テーマ（同和問題、障がい理解などで当事者からの話を聞く等）を扱ったホームルームや職員人権研修を昨年並みに実施する。[生徒8回・教職員2回]</p> <p>ウ・認知後は速やかに会議を開催し、対応、解決に向かう。[会議数：のべ34回]</p>	<p>(1) ア・学校満足度は74.2%で、概ね達成しているが微減が続いている。学校行事や教科外活動を充実させるなど魅力を高める必要がある。(△) イ・生徒対象の人権ホームルーム・講演会を計8回実施した。トランスジェンダーの方、レズビアンの方、薬物中毒から立ち直った方、渡日生・外国ルーツ生を指導されてきた元教諭、両足義足のパラリンピアンなどを講師に招いた。生徒対象の講演は事後の感想アンケートより「よく理解できた・興味を持った」の肯定的回答が9割以上であった。また教員向けの人権職員研修や生徒指導研修を5回行った。(○) ウ・今年度からSC、SSWの勤務日を可能な限り揃えることで一層多様化する案件に対応する体制を取っている。このためケース会議の回数は、28回実施。内容は充実化している。いじめ対策委員会については案件が増加しており、11回開催している。個別の事象が増加傾向で組織的に対応している。会議数：のべ39回(○)</p>
	<p>(2) 美化・健康・保健・衛生管理・防災への意識を醸成し、清潔で整備された安心・安全な教育環境を実現する。</p>	<p>(2) ア・事務室等との連携による施設、設備のより適正な維持管理に努める。 ・学校内外における美化活動及び清掃活動の充実に努める。 ・生徒保健委員会の取組みを充実させ生徒の健康意識の増進を図る。 ・食物アレルギー対応委員会を充実させ「学校における食物アレルギー対応ガイドライン」の周知を徹底するなどし、事故の未然防止に努める。 ・喫煙防止、性感染症防止、薬物乱用防止教育の推進。</p> <p>イ・地域の防災訓練に学校施設を貸し出すなど、地域ぐるみによる防災意識の向上を図る。</p> <p>ウ・健康月間の設置し校内に設置された歯磨きスペースを活用し、歯磨き月間などを充実させる。</p> <p>エ・学校3師による健康相談の実施。</p>	<p>(2) ア・校内照明のLED化の促進。 [40ヶ所]消防設備を計画的に更新する。[42ヶ所]校内草刈りを定期的に実施。[9回] ・生徒保健委員会の研究発表会を2回程度実施する。[3回] ・食物アレルギー委員会を学期に1回開催する。[3回]</p> <p>・学校保健の講演会を引き続き実施し肯定率を維持する。 [肯定率:喫煙防止教室 98%、性感染症防止講演 99%、薬物乱用防止教室 95%]</p> <p>イ・近隣保育所等との連携を継続させる。[2回]</p> <p>ウ・歯の健康月間として年間2回程度実施する。[紙面1回]</p> <p>エ・学校3師による健康相談を年に5回実施。[10回]</p>	<p>(2) ア・突発的なトイレ故障、器物破損、漏水等が多発したが迅速に復旧を行い、安全で衛生的な校舎を維持した。校内照明LED化68か所。消防設備42か所更新。校内草刈り年9回実施。(○) ・年3回生徒保健委員会を開催し、毎月教室前の消毒液の補充や管理、女子トイレの生理用品の補充について計画、実施をした。年3回の美化週間を設定し昼休みの校内放送で保健委員が美化の呼びかけをし、保健委員が廊下や階段のゴミ箱清掃を行った。研究発表ではなく環境美化を実践した。(○) ・食物アレルギーに係る委員会を4月、11月、2月の3回実施。今年度事案は発生しなかったが、修学旅行前にエビペン所持生徒の確認や他校の事例を共有した。3回めは今年度の総括と来年度の実施日の確認、生徒アレルギー情報再確認。(○) ・喫煙防止教育講習会(94%)、性に関する講習会(99%)、薬物乱用防止教室(99%)と高い肯定率を維持している。喫煙事案の減少につながった。(○) イ・保育所が本校に避難訓練を実施した際に手作りおもちゃでお迎えし、大型絵本の読み聞かせなどで交流。2回実施。(○) ウ・年2回期間中の保健だよりで歯の健康維持についての意識を喚起した。また歯科健診の結果報告をすべての生徒にコメントを添えて通知した。今年度の歯科検診は昨年よりも虫歯の件数が減少した。(○) エ・内科相談7回、歯科相談8回実施。内科は1名面談を実施。また、普段対応する中で、気になる案件について学校医より助言を頂き、生徒に還元する形をとった。歯科は虫歯の多い生徒を呼び出し、現在7名が歯科指導を受けている。15回。(◎)</p>
	<p>(3) 特別活動や生徒会活動を通じて自己有用感を醸成する。</p>	<p>(3) ア・部活動参加率は地域との連携を深めR6年度には35%とする。 ・クラブ活性化担当の配置、地域や外部人材との連携による部活動及びボランティア活動の充実に努める。</p> <p>イ・地域中学校との交流を推進する。 ・生徒主体の体育祭、翔南祭、学習発表会など学校行事を充実させる。 ・PTA 地域清掃活動を生徒会の通学路清掃と連携させて、生徒とPTAがともに校外で清掃活動を行う。</p>	<p>(3) ア・部活動加入率を増加させる。[27.2%] ・ボランティア部や生徒会が主体となり、体験活動ボランティア活動について、10回程度の実績をめざす。[年5回延べ28名]</p> <p>イ・部活動について、中学校との連携回数を増加させる。[11回] ・学校行事に対するアンケートでの肯定的意見を増やす。[77.5%] ・一斉通学路清掃参加者を100名程度とする。[120名]</p>	<p>(3) ア・部活動加入率30.0%で昨年度より微増した。4月の当初にクラブトライアルを2日間設定して全クラブで1年生のクラブ体験を実施。(○) ・生徒会役員が地域清掃で誘導係や、オープンスクールでの生徒会活動及び制服の紹介を行った。また泉南市が主催したバスケットボールの大会に参加し、同年代の生徒と対戦したり、泉南市長と共にエキシビジョンマッチを行ったりして地域と連携した活動となった。計5回と回数は下回ったが内容は充実して延べ40人参加。(○) イ・中学との部活連携は女子バレーボール部・男子バスケットボール部を中心にのべ4回本校で複数の中学校との交流を実施。(△) ・学校行事に対する肯定度では72.1%で、昨年度比で5.4%減少しているが、概ね達成している。(△) ・学校内外における美化活動について通学路清掃をPTAの協力のもと7/8と12/11に実施した。参加者の合計が123名。PTAにも食堂利用券を配布。(○)</p>

府立りんくう翔南高等学校

4 働き方改革に取り組む同僚性の高い学校組織の構築	<p>(1) 教職員の資質向上のため、授業改善を軸に、人権教育、いじめ防止、インクルーシブ教育、教育相談、食物アレルギーなど必要に応じたテーマで講演会や研修を実施する。</p> <p>(2) 働き方改革を推進し、労働安全衛生管理体制の充実する。</p>	<p>(1) ア・ミドルリーダーや外部講師により、授業改善（ICTを活用した授業実践に向けた研修）、偏見や差別を許さない、人権感覚の醸成、等の研修を実施し教職員の資質の向上に向かう。 イ・外部への授業公開を実施し、教員のさらなる授業力向上をめざす。 ウ・専門家との連携、研修の充実  エ・交流及び共同学習の推進</p> <p>(2) ア・働き方改革推進のため、週1回の午後5時の定時退庁日(水曜日)を設置する。月間超過勤務対象者には産業医との面談と管理職との面談を実施して改善を図る。  イ・時間外勤務時間削減のため、既存の業務の整理につとめる。フォーム作成ツールを活用して効率化を向上させる。</p>	<p>(1) ア・ミドルリーダーや外部講師により、授業改善等の研修を年間10回程度実施する。[12回] イ・外部への授業公開を3回実施する。[6回] ウ・教職員研修及び生徒対象の講演会、担当者による研修報告会を例年並みとする。[教職員研修等6回] エ・支援学校との交流を推進、発展させる。[教員が訪問1回]</p> <p>(2) ア・月間超過勤務80時間以上の職員が出ない環境づくり。[1名、延べ1回]  イ・欠席連絡の効率化と時間外電話の自動メッセージの活用。</p>	<p>(1) ア・職員向け校内研修として、AED1回、人権5回、初任10年研交流1回、公費私費会計1回、個人情報管理2回、不祥事防止5回、合計15回実施。(○) イ・外部案内の授業公開は初任研、10年研等で合計6回実施。今年度は10年研対象者が3名、初任者研修対象者が2名であった。(○) ウ・教員対象の人権研修は部落差別解消に向けたものを中心に実施した。職員会議の中に組みこみ実施したものを含めて6回実施。今後もより充実させ教職員の人権感覚を高めたい。(○) エ・近隣の支援学校と生徒作品展示の交流1回実施。(○)</p> <p>(2) ア・時間外電話メッセージ対応による効果もあり、月間超過勤務80時間以上の年間1人、延べ1回。当該教員とは産業医に加えて、管理職とも面談を実施して、勤務状況の改善について指導した。引き続き定時退庁を推進する。(○) イ・フォーム作成ツールによる連絡システムが浸透してきた。電話連絡による欠席連絡は全体の2割程度と昨年度から減っていないが、電話による連絡を好む保護者が一定数いるため、この割合で推移する見込みである。(○)</p>
------------------------------	--	---	---	---